

5 分でレプリケーションと フェイルオーバと watchdog の 構成を構築する

2015/5/15 pgpool-II day

安齋 希美



- インストーラの概要
- デモ (pgpool-II 2 台、PostgreSQL 2台)
- ■動作確認

インストーラ: 概要

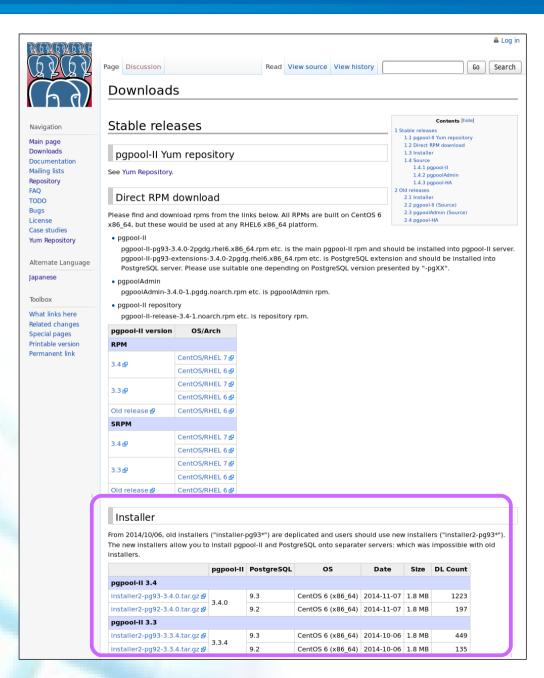


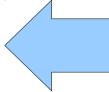
installer2-**pg94-3.4.2_rhel-6-x86_64**.tar.gz

- OS・アーキテクチャ、pgpool-IIバージョン、PostgreSQL バージョンごとに配布。
- RPMとインストールスクリプトからなる。
- 対話形式でいろいろ設定する。
 - マスタ・スレーブモード or レプリケーションモード、Watchdog の利用、レプリケーション、... など
- 1台で実行するだけで、関連するサーバすべてをセット アップできる。
 - pgpool-II の RPM をインストールする。
 - 各種スクリプト、設定ファイルを自動生成して配置する。
- インストーラ実行後は各ソフトウェアを起動するだけ。

インストーラ: ダウンロードページ







インストーラ: 実行方法



- pgpool-II をインストールするサーバで、root によって install.sh を実行する。
- 前提
 - 全台に ssh できる。
 - pgpool-II のライセンスに同意できる。
 - 対応するOS、アーキテクチャで、全台統一されている(今のと ころ CentOS 6.x x86_74 のみ)。
 - 対応するバージョンの PostgreSQL が全台にインストールされている。

デモ: 作成する構成



webserver1

pgpool-II

pgpoolAdmin

192.168.1.11 webserver1

192.168.3.11 webserver1-hb1

192.168.4.11 webserver1-hb2

watchdog (heartbeat)

192.168.1.100

webserver2

pgpool-II

pgpoolAdmin

192.168.1.12 webserver2

192.168.3.12 webserver2-hb1

192.168.4.12 webserver2-hb2

Load balance

dbserver1

PostgreSQL

192.168.1.13 dbserver1

Streaming Replication dbserver2

PostgreSQL

192.168.1.14 dbserver2

インストーラ: 実行内容 (1/3)



- ホスト、ユーザ、SSHの設定
 - watchdogを使うかどうか
 - セットアップ対象とするサーバの指定
 - ホスト名、ポート番号
 - インストール準備
 - パスワード無しでSSHできるように設定
 - バックエンドサーバにPostgreSQLがインストールされている かチェック
 - pgpool-II サーバに apache ユーザを作成(pgpoolAdmin用)

インストーラ: 実行内容 (2/3)



■ 設定ファイルの編集

- pgpool-II の設定
 - バックエンドノード
 - ヘルスチェック
 - レプリケーションモード/マスタ・スレーブモード、ロードバランスモード
 - フェイルオーバ、オンラインリカバリ
 - watchdog
 - クエリキャッシュ
 - pcp.conf
- pgpoolAdmin の設定
 - ユーザ名、パスワード(後でsuperuser として作成される)
 - 表示言語

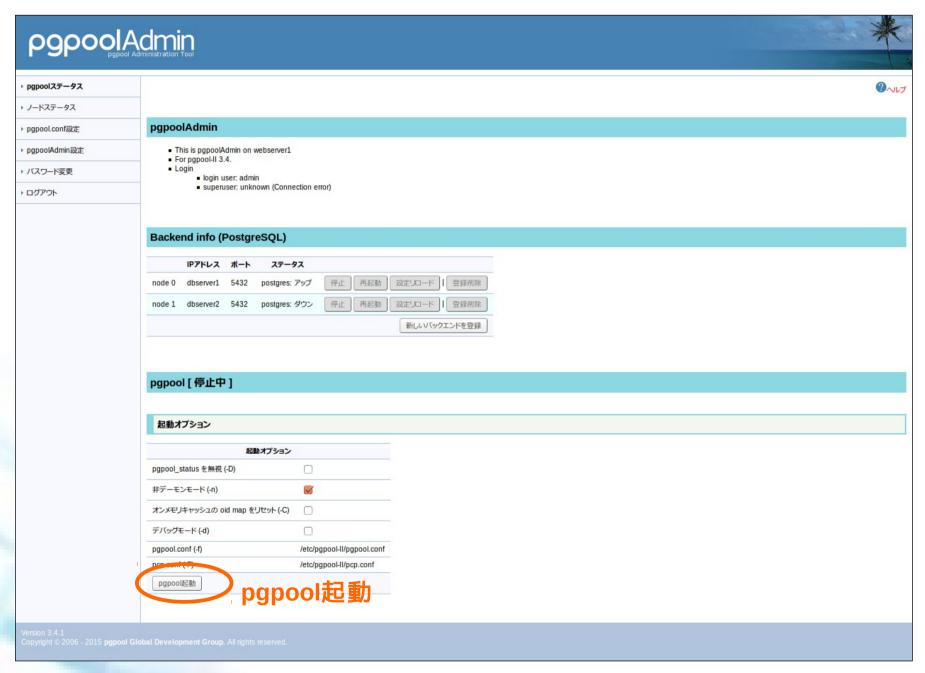
インストーラ: 実行内容 (3/3)



- 設定ファイルの編集
 - PostgreSQL の設定
 - Streaming Replication、recovery.conf
 - WALアーカイブ
 - pg_hba.conf
- インストール
 - pgpool-II、pgpoolAdminのRPMインストール、設定ファイル・スクリプト配置
- PostgreSQL のセットアップ
 - データベースクラスタ、ユーザ作成
 - pgpool_regclass()、pgool_recovery() を CREATE FUNCTION

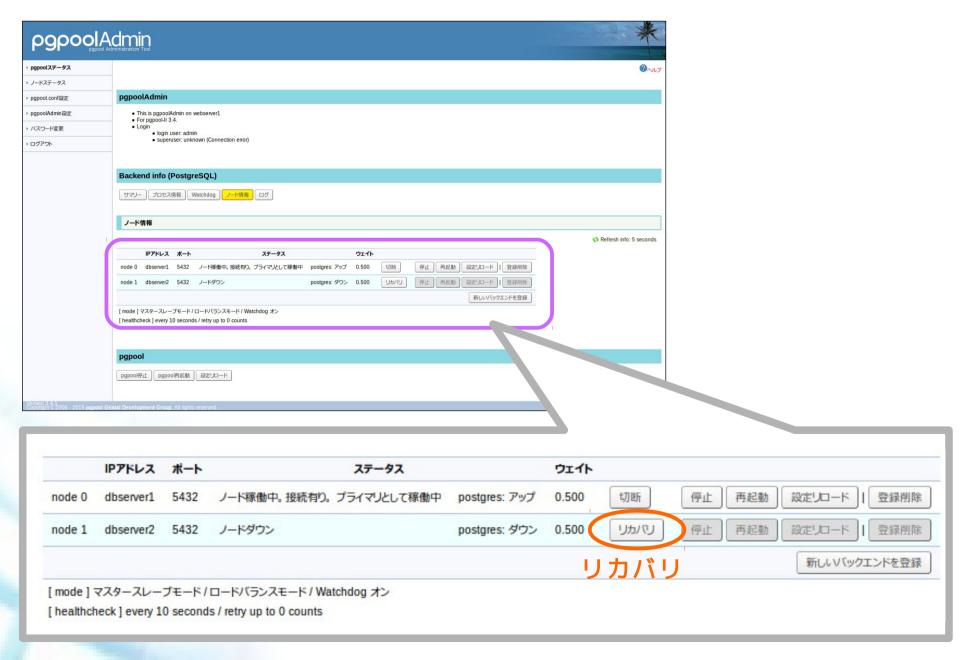
デモ: インストール後(1) 両方でpgpool-II の起動





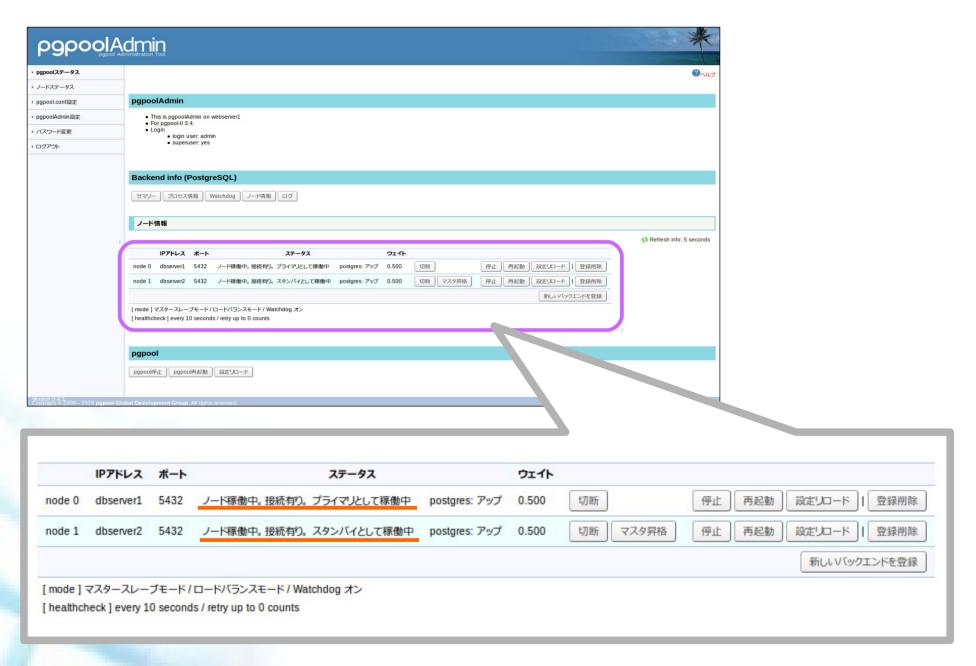
デモ: インストール後(2) スタンバイをオンラインリカバリ





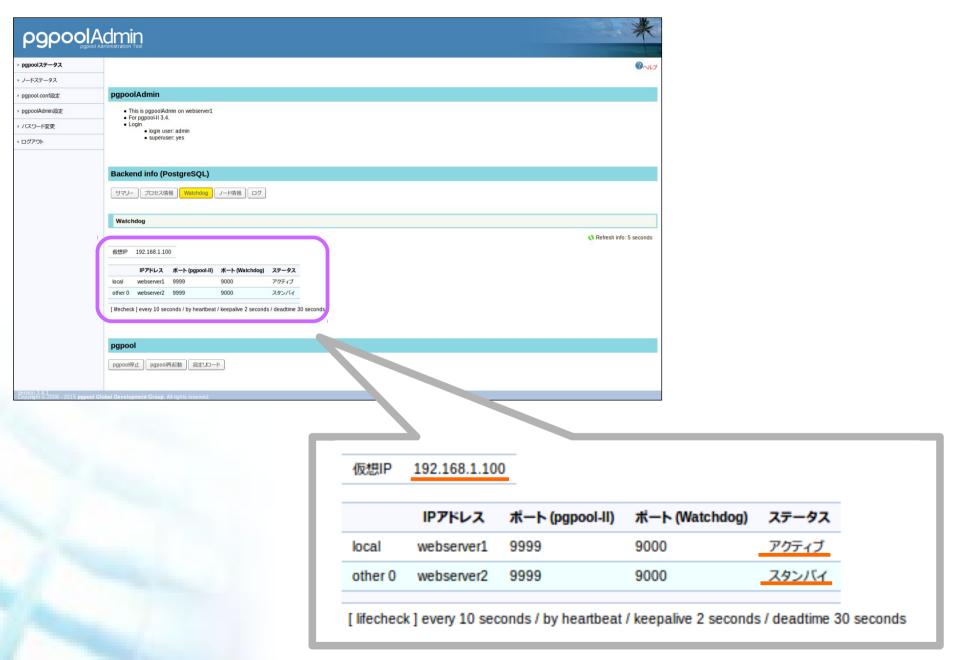
デモ: インストール後(3) 稼働開始:バックエンドノード





デモ: インストール後(4) 稼働開始: watchdog





付録: installer.conf



- インストーラ実行時に質問回答内容をもとに作成される。
- インストーラ実行前にinstaller.conf をあらかじめ作っておけば、インストーラと対話しなくてよくなる。installer.conf.sample というサンプルファイルがある。

```
# watchdog利用 or not
DEF PGPOOL WATCHDOG=yes
                                     # pgpool-II(1) ホスト名
DEF PGPOOL HOST ARR[0]=pool-alice
                                     # pgpool-II(2) ホスト名(watchdog 利用時)
DEF PGPOOL HOST ARR[1]=pool-bob
                                     # PostgreSQL(1) ホスト名
DEF BACKEND HOST ARR[0]=db-alice
                                     # PostgreSQL(1) ポート番号
DEF BACKEND PORT ARR[0]=6543
                                    # PostgreSQL(2) ホスト名
DEF BACKEND HOST ARR[1]=db-alice
                                      PostgreSQL(2) ポート番号
DEF BACKEND PORT ARR[1]=6544
NETMASK=255.255.25.0
                                     # netmask
                                     # pgoolaAdmin ログインユーザ
DEF PG ADMIN USER=admin
                                     # pgpoolAdmin ログインパスワード
DEF PG ADMIN USER PASSWORD=pgpool
                                     # DB レプリケーション方法 (stream or native)
DEF REPLICATION MODE=stream
                                     # virtual IP (watchdog 利用時)
DEF delegate IP='192.168.1.123'
                                     # PostgreSQL(1) データベースクラスタ
DEF PGDATA ARR[0]=/data/alice-data
DEF ARCHIVE DIR ARR[0]=/data/alice-arc # PostgreSQL(1) アーカイブディレクトリ
                                     # PostgreSQL(2) データベースクラスタ
DEF PGDATA ARR[1]=/data/bob-data
                                     # PostgreSQL(2) アーカイブディレクトリ
DEF ARCHIVE DIR ARR[1]=/data/bob-arc
```

付録: lib/param.sh



- 以下は install.sh 内で質問されない。
- 変更したい場合は lib/param.sh を編集する。

```
# params to specify in only this file
PGPOOL_PORT=9999 # pgpool-II のポート番号
PCP_PORT=9898 # PCP のポート番号
WATCHDOG_PORT=9000 # watchdog のポート番号
NOBODY_SBIN="/var/private/nobody/sbin" # watchdog 利用時の sbin コマンドコピー先
PID_FILE_DIR="/var/run/pgpool/" # PID ファイルディレクトリ
PGPOOL_LOG_DIR="/var/log/pgpool" # ログディレクトリ
```